

令和7年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

函城中学校区 校番 19 学校名 呉市立函城小学校

a 学校教育目標		① 「心豊かに、自立する」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉(学校の使命) 共に学び、自分を磨き、未来を創る児童を育成するため、地域や保護者との協働のもと、時代に必要な資質・能力を育成する教育に貢献する。 〈ビジョン〉(将来の学校像) 教職員が力を合わせ、児童の力を伸ばし、共に高まる活力ある学校を目指す。											
c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点		学力では、3校で二川授業スタイルを実践し、学力向上を図ってきたが、学力に個人差があり、思考力・表現力に課題がある。豊かな心の育成では、3校で学校行事や縦割り掃除の取組を通して自己肯定感の向上を図ってきたが、学年によっては自己肯定感が低い学年がある。体力では、個人差という課題がある。今年度は、学力の向上では特別支援教育の視点を明確にして二川授業スタイルをさらに深化させ、個の学びと協働による学びを実現できるよう授業改善を推進する。豊かな心の育成では縦割り活動をより充実させ自己肯定感を高める取組を進め、特別支援教育の視点で児童対応を行う。健やかな体の育成では、生きる力の育成という視点で体力向上、生活リズム、自分の命は自分で守る力を育成する。													
育成を目指す資質・能力		○知識・技能 ○思考力・判断力・表現力 ○主体性													
評価計画(中期経営目標を設定してから①・2・3年目)										自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期						
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価				
*** 確かな学力の向上 (教務部)	① 学力の向上	基礎・基本の徹底	・授業内での練習問題の時間の確保 ・特別支援教育の視点も入れての個の基礎学力の向上 ・AIタブレットドリル(キュビナ)による家庭学習(ワークブック配信) ・聞き方話し方の指導	国語科・算数科の単元テスト知識・技能の平均点	80	81.3	101.6	A							
				AIタブレットドリル(キュビナ)のWAU率	90	79	87.8	B							
		思考力・判断力・表現力の向上	・「二川授業スタイル」の組織的な取組 ・考えの再構成の設定(個→集団(ペア)→個) ・児童の言葉で説明する場の確保 ・教師のファシリテート	国語科・算数科の単元テスト思考力・判断力・表現力の平均点	80	81.4	101.7	A							
** 豊かな心の育成 (生徒指導部)	① 自尊感情の向上	自他を大切にし認め合う児童の育成【いじめの防止】	・発達段階に応じた役割設定(縦割り活動) ・お互いのよいところを伝え合う場の設定 ・積極的な評価によるくすのき賞 ・いじめの積極的認知と迅速な取組 ・いじめ等に係る職員研修 ・命を大切にする教育の実施 ・特別支援の視点を入れた支援	自分にはよいところがあると思っている児童の割合	85	86.1	101	A							
				いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う児童の割合	100	99.2	99	B							
		主体的に行動できる児童の育成	・キャリアログの活用と評価 ・二川活動振り返りカードの活用と評価 ・個の目標設定と振り返り ・返事 挨拶 靴揃えの指導	将来の夢や目標をもっている児童の割合	90	90	100	A							
* 健やかな体の育成 (保体部)	① 生きる力の向上	体力の向上	・運動遊びの紹介と実施 ・運動の生活化(外遊び) ・くれチャレンジマッチや検定の実施 ・児童への保健指導及び食育指導 ・通信による保護者への啓発	体育(運動)が好きな児童の割合	80	91.9	114.9	A							
				生活習慣調査において、週5日以上望ましい生活習慣(早寝・早起き・朝ご飯・メディア)ができた児童の割合	85	89	104.7	A							
		自分の命は自分で守る力の育成	・防災参観日の実施 ・通信による保護者への啓発 ・土砂災害対応携帯マニュアル及び地震津波対応携帯マニュアルの作成と確認 ・実践的な避難訓練の実施 ・防災ノートによる振り返り ・体力安全委員会での取組	自分が住む地域に起こりやすい災害について理解している児童の割合	100	100	100	A							
				災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している児童の割合	100	100	100	A							
業務改善	意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	児童と向き合う時間の確保	・日程や時程の工夫 ・3部会(分掌)での業務分担による主任の業務の軽減 ・3部会(分掌)での自主的運営の重視	児童と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合	80	90	112	A							
		長時間勤務の削減	・退校時刻を意識する風土の継続 ・校務のICT活用 ・見通しをもたせることによるタイムマネジメント	時間外勤務が月45時間以内の教諭等の割合	100	76	76	C							

【k:評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60